

# 頸部結核性リンパ節炎と 主な鑑別病変

研修医2年目:A. M

指導医:K. R

Y. H

O. H

# 症例提示：30代男性

- 主訴：右頸部リンパ節腫脹
- 現病歴：2ヶ月前から上記症状出現し、当院耳鼻咽喉科受診。咳嗽なし。
- 既往歴：特記すべき事項なし
- 理学的所見：後頸部（3cm大）を含む複数の右頸部リンパ節腫脹、圧痛なし、可動性良好

# 検査結果

- 血液検査

WBC 9600/ $\mu$ l

Neutro 75.8%

Lymph 13.7%

Mono 7.0%

Eosino 3.2%

Baso 0.8%

RBC 548万/ $\mu$ l

Hb 14.3g/dl

Plt 38.7万/ $\mu$ l

CRP 7.16mg/dl

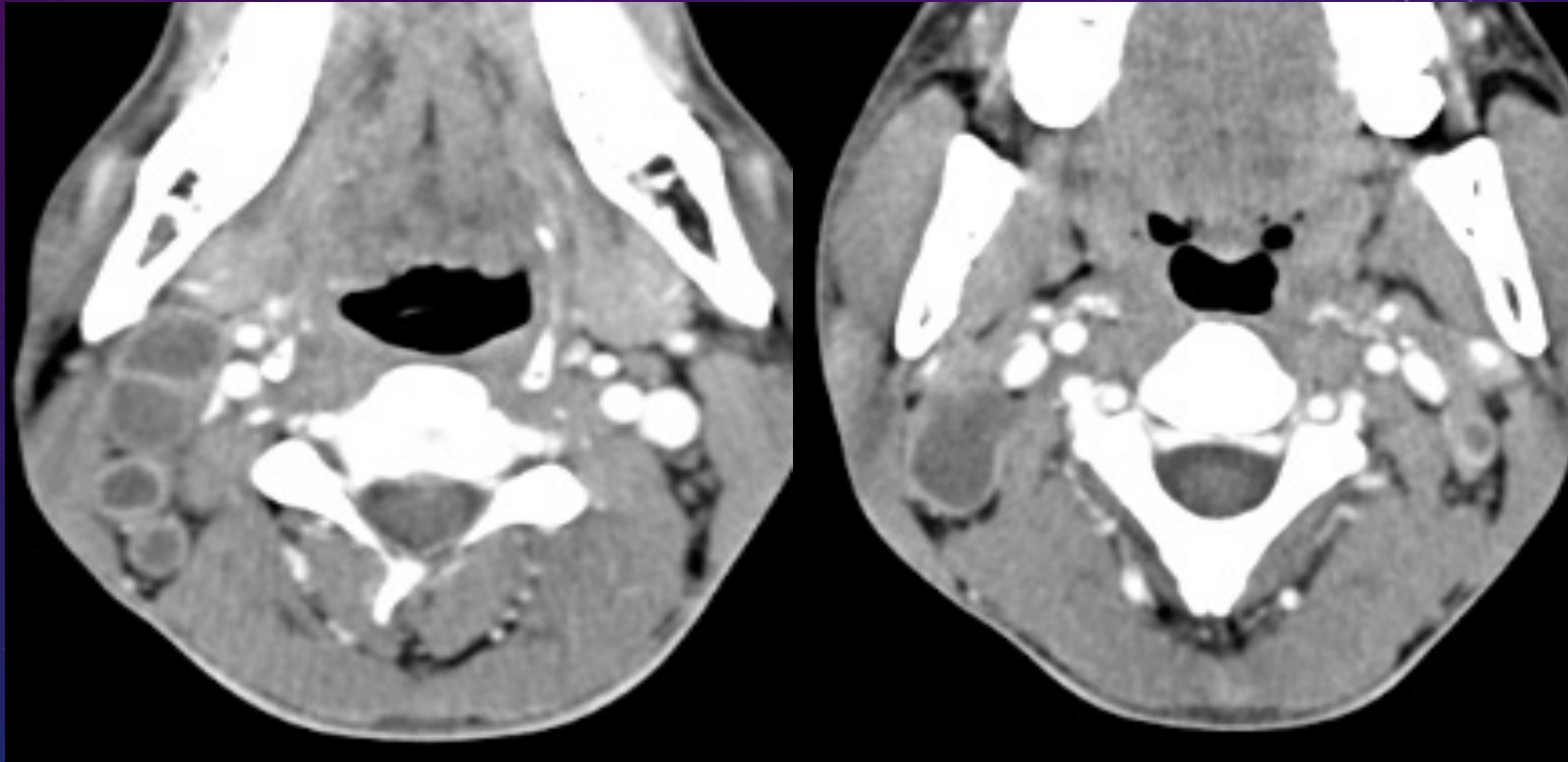
CEA 2.6ng/ml

SCC 0.8ng/ml

LDH 168U/L

その他生化学項目に異常所見なし

# 頸部造影CT



# 内部低濃度を示す頸部リンパ節疾患の鑑別

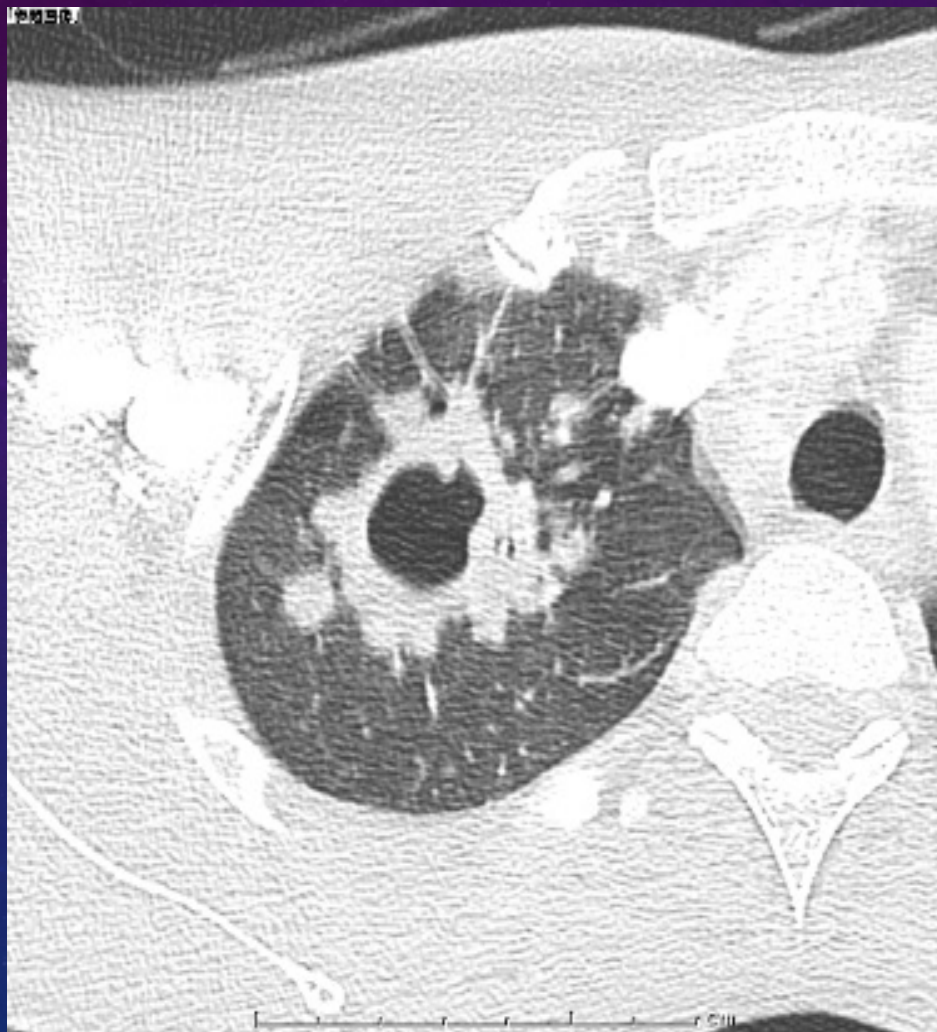
## 【非腫瘍性：炎症性・肉芽腫性】

- 結核性リンパ節炎
- 化膿性リンパ節炎
- 猫ひっかき病
- (菊池病)

## 【腫瘍性】

- 転移性リンパ節
  - 甲状腺癌
  - 扁平上皮癌など
- 悪性リンパ腫

# 胸部CT 肺野条件



# 画像所見のまとめ

## 頸部所見

- 右側優位の両側頸部リンパ節病変（後頸リンパ節を含む）
- 内部均一な低濃度
- 境界明瞭，周囲脂肪織混濁なし

## 胸部所見

- 右肺尖部に内部に空洞を伴う腫瘤を認め、周囲に複数の娘結節を伴う。

# 病理検査

- 穿刺吸引細胞診(FNA): 結核菌群核酸検出 (PCR陽性)

- 細胞診:

壊死物質とリンパ球・マクロファージを背景に、クロマチンが淡い橢円形～紡錘核を有する細胞と多核巨細胞

それぞれ類上皮細胞やラングハンス型巨細胞を示唆し、抗酸菌感染症に矛盾しない細胞像



# 喀痰検査

- 結核菌核酸検出検査(PCR法)陰性
- 抗酸菌直接塗抹陰性
- 同定検査: *Mycobacterium tuberculosis*

→最終診断: 結核性リンパ節炎

# 考察

- 病的リンパ節CT診断基準
- 頸部結核性リンパ節炎
- 頸部リンパ節のレベルシステム
- リンパ節の局在からみた鑑別

# 病的リンパ節CT診断基準

- 大きさ: 顎下・上内頸リンパ節: 1.5cm以上  
その他のリンパ節: 1.0cm以上
- 形状: 橢円形→類円形
- 局所欠損(中心性壊死)→内部不均一
- 節外進展(被膜外進展)→辺縁不明瞭



# 頸部結核性リンパ節炎：臨床的事項

- 無痛性の頸部腫瘤
- 肺結核は伴わないことが多い
- 肺外結核において胸膜炎に次いでリンパ節炎が多い
- 内深頸リンパ節、後頸リンパ節に好発
- 両側性のことが多い
- 頸部下部分リンパ節が侵されている場合、肺結核の有病率が高い
- 治療は肺結核に準ずる（INH、RFP、PZA、EB or SMによる4剤短期化学療法）

# 頸部結核性リンパ節炎【CT所見】

①急性期：造影効果のある均一な腫大リンパ節

→結核性肉芽腫を反映

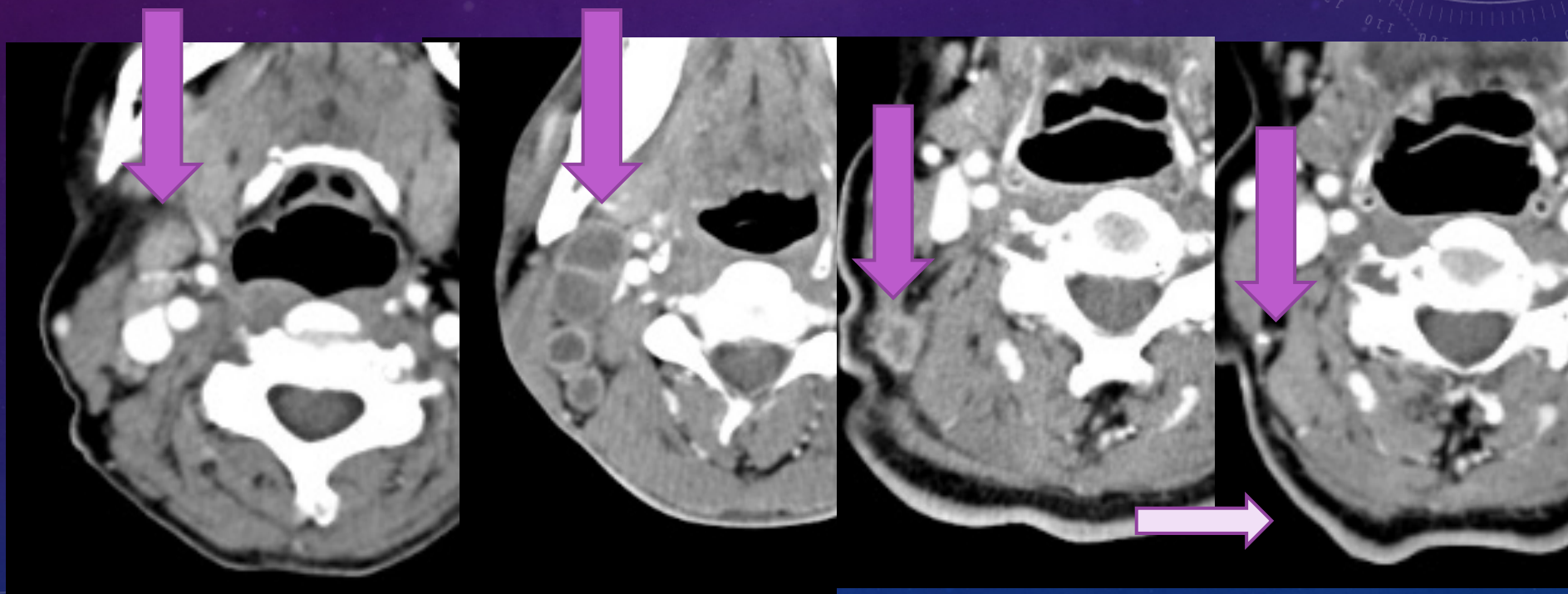
②亜急性期：リンパ節辺縁の炎症性肉芽組織（類上皮細胞層）による造影効果を伴うリング状構造

中心部の乾酪または融解壊死部分は造影効果のない低吸収域と画像上最も高頻度な所見

③慢性期：均一な吸収値と石灰化リンパ節

線維化したリンパ節を反映

# 頸部結核性リンパ節炎【CT所見】



急性期

亜急性期

慢性期

# 頸部結核性リンパ節炎【MRI所見】

①急性期：造影効果のある均一な腫大したリンパ節（CT所見と同様）

②亜急性期：

・リンパ節辺縁：T1強調画像で中等の信号

T2強調画像で低信号

・中心部：T1強調画像で低信号

T2強調画像で著明な高信号

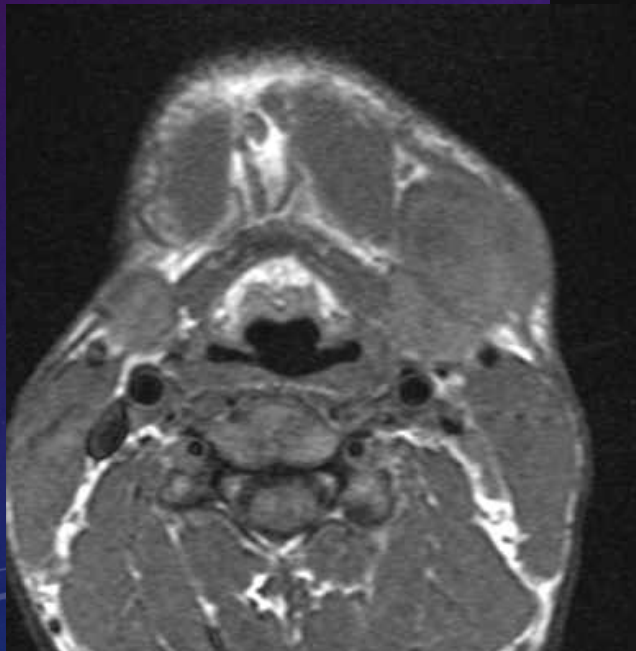
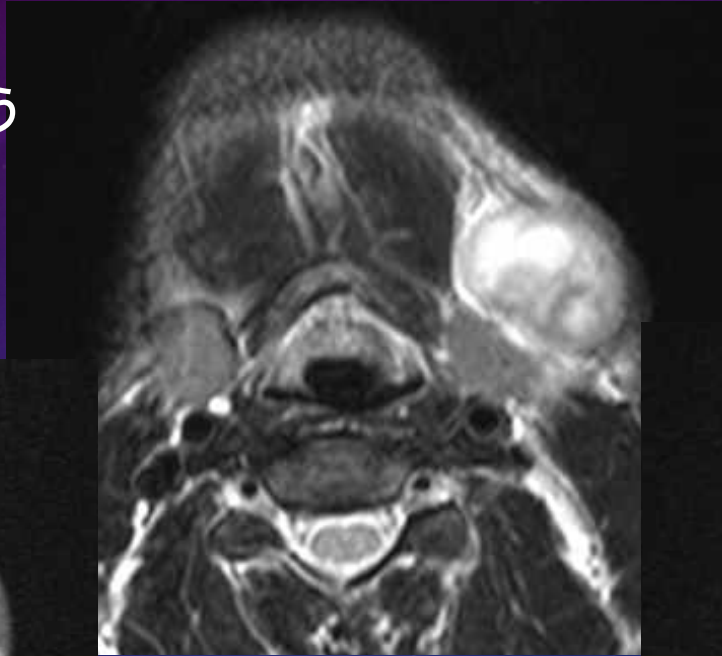
リンパ節辺縁は造影効果を示し、厚く不整なことが多い

③慢性期：T1/T2ともに低信号、造影効果は示さなくなる

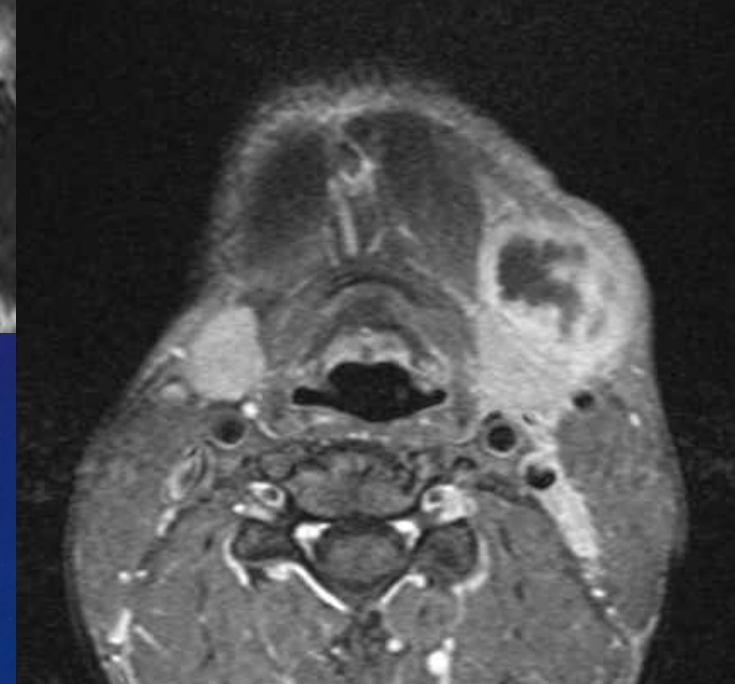
# MRI 横断像(亜急性期)

T2WI

左顎下部3.7cm大腫瘍  
内部に偏在性嚢胞を伴う



T1WI



FST1WI-CE



# 頸部リンパ節レベルシステム(レベルⅤ、Ⅱ)

Som PM et al. AJR  
2000, 174:838 Fig18  
2014.11.18.

レベルⅡ: 頸静脈窩下縁から舌骨体部下縁の高さのうち、顎下腺後縁と胸鎖乳突筋後縁に存在するリンパ節

レベルⅤ: 頭蓋骨胸鎖乳突筋付着部後縁から鎖骨の高さで、胸鎖乳突筋後縁より後方、僧帽筋前縁より前方に位置するリンパ節

# 頸部リンパ節病変の局在から見た鑑別

## ・結核性リンパ節炎：レベルⅤ、Ⅱ

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2005年 結核性リンパ節炎 77巻8号p. 537

## ・その他

猫ひっかき病：レベルⅠを介してⅡ

口腔癌・咽頭癌：レベルⅡ、Ⅲ

菊池病：特に傾向なし

甲状腺癌：ランダム

## ・レベルⅤリンパ節腫大を生じる病態：

・咽頭後壁癌、甲状腺癌の転移

# 結語

- 肺病変を伴った頸部結核性リンパ節炎の症例につき画像所見を中心に発表した
- 内部に低濃度を伴った比較的典型的な結核性リンパ節炎を示し、肺所見とともに画像上結核が強く疑われた
- 画像所見は病期などによって所見は多彩で、しばしば診断に難渋する。病歴や臨床症状、生検結果などと併せて総合的に診断する必要がある
- 頸部結核性リンパ節炎の画像診断につき、必要な臨床的事項と併せて概説した